

平成17年度 第5回 経営審議会議事要録

日 時 平成17年12月13日(火) 15:00～17:00

場 所 北方キャンパス本館 E701会議室

出席者 <委員>阿南理事長、矢田副理事長(学長)、出口理事、棚次理事(副学長)、
羽田野理事(事務局長)、清原監事、明石委員、稲積委員、小島委員、下村委員、
高橋委員、富浦委員、中津井委員

配布資料

- 1 北九州市立大学改革プラン(案)
- 2 平成18年度予算編成について(案)
- 3 人事制度について
- 4 副学長の職務分担
- 5 副学長及び学部長等の選考方法について
- 6 北九州市立大学の自己点検評価について
- 7 教育研究審議会における審議経過
- 8-1 北九州市立大学決算報告書(4～9月期)
- 8-2 平成17年度給与改定について
- 8-3 平成17年度冬季の期末・勤勉手当について
- 8-4 「施設整備検討委員会」及び「自主財源検討委員会」の設置について
- 8-5 大学の危機管理(緊急時の対応手順)
- 9 基盤教育センター、ビジネススクール、産業社会研究所の経過

議事要旨

第1号 北九州市立大学改革プランについて

・学長より、北九州市立大学改革プランについて提案、資料説明

- 中期計画を見たときに、項目がたくさんあると思っていたが、この改革プランは組織的にも大きくなり、中身もすごい。財政面での試算、手当の方法は了解ずみなのか。
- 現在、財政課長査定のレベル。来年度についてはそんなに大きな金額ではない。
- ビジネススクールはどうか。
- 平成19年度予算になる。
- 財務担当理事はいるのか。
- 理事の分担はない。縦割りすぎると横の連携が難しい。執行部会議が担当している。
- 経営企画室の位置付けはどのようなものか。
- 経営企画室は事務職員のみだが、教員が参加する経営企画室ワーキング会議を設置し、事務方の提案をワーキング会議で議論いただいている。

- ワーキング会議には実行部隊も入っているのか。
- 課長級の職員が参加している。
- 入試センター、広報センターは、それぞれの委員会との整合性はどうなっているのか。
- 広報センターは、センターと委員会を並存している。
- 広報センター長と広報委員長の関係は。
- 経営企画担当局長が兼任している。
- 入試センターは、これから詰めていくが、当面は並存させる。入試センターは今まで調整機能が中心だったが、より機動的にやっていきたい。入試業務も行っていく。
- 国立大学には、事務のプロがいない。3年で入れ替わる。プロパー職員の採用には賛同する。経営企画部門を置くのも意味のあることと思う。入試から就職まで一貫して取り組むというのはアピール度が高い。重要視すべきは、キャリアの中のインターンだと思う。総合コースみたいなものを設置し、キャリアもやり、専門教育も行えば、入社した次の日から即戦力になれる。キャリア教育はこれから重要になってくる。試行錯誤が必要になってくると思う。フレキシブルに動いたほうが良い。
- 全体計画は大変わかりやすいが、相当ハードだと思う。先生方の仕事配分はどのように考えているのか。
- 企業の職務分担のように簡単にはいかない。
- 労働配分は、基本的にはできない。経営は有能な人がやる。有能な人は、教育も研究もいい。比重はかかってくる。現在合理化しているのは、教授会での常任委員会制度がある。
- 教育と研究の比率は、教育の比率が高くなってきている大学が多い。
- 大学にはスタープレイヤーもいるが、その人だけで支えている訳ではない。最近ヘッドハンティングが多いが、給料を上げるというよりも雑用（研究以外の仕事）を減らすということを条件に出すところが多い。それぞれの教員に合った方法をとっている。
- 企業の経営企画部門はどうなっているのか、例示願いたい。
- 企画部が経営戦略を担当しているが、戦略そのものは役員会で練って、企画部が文書化している。各事業ごとに、それぞれが毎年何をするというのもあるが、全体調整は企画部が行う。企業にとっては、経営企画は非常に重要な部署。新規事業を起こすときも中心になるし、役員会の事務局でもある。大学の経営企画の規模は良く分からないが、特色あるスタンスを考えていくのが、経営企画の仕事だと思う。
- 運営交付金だけに頼っている大学は、長くは続かないだろうと言われている。私立の大学は、経営手腕のある人を入れている。財務を建て直し、教育と研究をどうして行くのか、ある程度企業の考え方を取り入れていかないといけない。
- 本学では、経営すべてを担うだけの規模が経営企画室にはない。財務・経営は、執行部自体が責任をもって考えていかないといけない。

第2号 平成18年度予算編成について

・事務局次長より、平成18年度予算編成について提案、資料説明

- 教員数と職員数は。
 - 教員が233人、職員が72人。
- 教員に定員という概念はあるのか。
 - 定員という概念がはっきり確定している訳ではない。法人化移行した時の人数をベースにしている。
 - 市の条例で定員を決められていたが、法人化に伴いその枠は外れた。
- 非常勤はどうなっているのか。
 - 運営交付金の額による。
- 職員人件費の減額理由は。
 - 給与改定による減額のため。
- 経常経費という枠はないのか。
 - 今年度から企業会計を導入しているが、前年度との比較をしているので、このような表にした。
- 支出全体の中で、教育と研究が占める割合は。
 - 仮定が難しいので、出していない。
- きちんと分けたほうがよい。そのためには、教育とは何か、研究とは何かをきちんと定義しないとイケない。
 - 仮定条件になると思うが、次回提示する。
- 教育研究支援経費とは何か。
 - 図書館、学術情報センターの運営経費である。
- 要望と現実がずれたところはどこか。
 - 人件費についての考え方（実数と定員）に相異があった。
 - 授業料については、例年どおりいけば18年度が値上げする年になるが、法人化1年目で議論する時間がなかったことといろいろなことがまだきちんと改善できていない段階で値上げはどうかと考えた。
- 極めて見識のある判断だと思う。
- プロパー職員と市職員に給与格差はあるのか。
 - 平成18年度に計画を作成する。市職員より若干低めにすれば、年間30～40万円の差が出る。
- 年俸制か給与か。
 - まだ検討していない。どちらかではなく仕事に応じて考えたい。
- 剰余金の取扱いはどのようになるのか。
 - 「経営努力」と認定されれば目的積立金になる。

【議長】本議案について原案どおり承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告事項

- ・事務局より、
 - (1) 人事制度
 - (2) 副学長の職務分担
 - (3) 副学長及び学部長等の選考方法
 - (4) 北九州市立大学の自己点検評価
 - (5) 教育研究審議会審議経過
 - (6) 平成17年度予算執行状況等 について報告

【人事制度について】

- 任期付教員について、給与は最初に決めた額を5年間支払うのか。途中で見直しするのか。
- 3年プラス2年という採用を考えているので、3年で見直す。給与はまだ決まっていない。
- 採用は、教育研究審議会となっているが、その場で審議するのか。
- 審議を経て、学長が決定している。
- 任命は誰が行うのか。
- 理事長が行う。

【緊急時の対応手順について】

- 緊急時のマスコミ対応はどうするのか。
- 広報センターの所管である経営企画課で担当する。
- 何か起きたときのマスコミの取材は鋭い。司令塔をきちんと決めておかないと対応がバラバラになる。

(1)～(6)の項目について事務局から報告があり、審議し、了承を得た。

全体に対しての意見

- 改革を系統だててやっていると感じた。一番大切なのは、誰のための改革かだ。大学にとっての客は学生だと思う。いい学生を入学させ、いい授業を受けさせて社会に出す。他大学もいろいろPRしている。広報を徹底していかないといけないのではないか。

- 発言し、提案したことが着実に行われているし、決定のスピードが早い。評価している。計画がお題目にならないように、戦略を実行のあるものにして欲しい。社会貢献室を設けるのは良いこと。バラバラにやっていたことを一元化し、そこに戦略を持たせ、単位化を図りその成果を受けて広報に結びつけPRしてほしい。
- 学校の運営が適正に行われるかを見守っているが、いい方向にいていると思う。北九州市立大学は、地元の人が誇りに思っているかどうかというような面でやや弱いと思う。広報が足りていない。大学の姿勢をどんどんPRして、地元の人たちが自分たちの子どもをどんどん入学させるような広報をして欲しい。

次回開催について

事務局から、次回審議会の開催について、平成18年3月14日(火)14時から開催したい旨説明があった。